

高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科 国語

科目 論理国語

教 科： 国語

論理国語

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 3 学年 A 組～ E 組

教科担当者：

使用教科書： （ 論理国語 大修館書店 ）

- 教科 国語
- の目標：
- 【知識及び技能】
- 実社会や実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けて、適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】
- 考える力を身に付け、それを他者と伝え合う中で表現したり、考えを広げたりする力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】
- 様々な文章を読んだり、味わったりすることを通して言語感覚を磨き、国語の力を伸ばそうとする態度を養う。

科目 論理国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○社会生活に必要な国語の知識や技術を身に付け、文章の効果的な組み立てや接続の仕方、段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。	○論理的・批判的に考える力を伸ばし、他者と伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりする。 ○自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。 ○論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。	○知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする。またその取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする。 ○言葉を通して他者や社会とかかわろうとする努力を怠らないようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	「世界を広げる『批評』の言葉」 (宇野常寛)	・筆者が定義することを的確に押さえ、主張をとらえる。 ・これからの時代における「書く」「読む」力について、自分の考えをもつ。			○	文や文章を効果的に組み立てたり接続したりするしかたについて理解を深めている。	○			6
					○	内容や構成、論理の展開をふまえ、要旨を把握している。 主張を支える根拠や結論を導く論拠をとらえるとともに、批判的に検討している。		○		
						進んで筆者の主張とその根拠や論拠をとらえ、内容に関して自らの考えをもち伝えようとしている。			○	
	「ミロのヴィーナス」(清岡卓行)	・比喩的な表現に注意しつつ、論の展開をとらえる。 ・筆者の主張をふまえて、美しさについて、理解を深める。			○	言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解している。	○			6
					○	文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。		○		
						学習課題に沿って、本文中の比喩表現に注意しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。			○	
	第1学期中間考査			○	○		○	○		1
	言葉を定義する	・身近な言葉について、他者にもわかるように定義する。		○		情報の信頼性や妥当性について適切な判断をしながら、客観化・相対化をして明確に考えている。		○	○	4
	具体的／抽象的に書く	・的確に伝わるように具体的に書いたり抽象的に書いたりする。		○		文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるように工夫している。		○	○	4
	「家族化するペット」(山田昌弘)	・統計資料や事例と筆者の主張との関係をとらえる。 ・社会構造の変化が、思考・感情に影響を与えることについて考えを深める。			○	必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○			6
					○	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。		○		
						学習課題に沿って、統計資料と本文との関係に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。			○	
	「社会的実在としての言語・法・貨幣」 (岩井克人)	・論の展開のしかたや、具体的なエピソードの意図を理解する。 ・言語・法・貨幣がどのような存在かを読み取り、社会に対する認識を深める。			○	言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解している。	○			7
					○	文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。		○		
						学習課題に沿って、具体的なエピソードに注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。			○	
	第1学期期末考査			○	○		○	○		1
	統計資料から分析したことを書く	・自分の考えと統計資料から読み取ったことを区別して書く。		○	○	統計資料を読み取り、自分の書く文章の主張を支えるために必要な情報を抽出している。		○	○	4
	立場を明確にして書く	・立場を明確にし、根拠を示しながら自分の意見を書く。		○		自身の主張と、それに対する根拠を書き出している。		○	○	4
	「『贈り物』としてのノブレス・オブリージュ」 (内田樹)	・筆者の発想のしかたや論の展開の特徴を読み取る。 ・「贈り物」についての筆者の主張をふまえて、自己と他者について考える。			○	必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○			6
					○	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。		○		
						学習課題に沿って、一般的な解釈と、筆者の解釈の違いを意識しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。			○	
	「多数決を疑う」 (坂井豊貴)	・筆者が指摘する問題点や代替案を読み取り、主張を理解する。 ・意思決定のしぐみに興味をもち、社会制度のあり方を考える。			○	必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○			6
					○	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。		○		

2 学 期						・学習課題に沿って、筆者の問題意識を把握しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。			○	
	相手を意識して書く	・相手に応じた適切な表現を選んで書く。		○		相手の予備知識に応じて情報を整理し、文章構成を工夫して、主旨を的確に伝えている。		○	○	5
	対立した意見を踏まえて書く	・多様な意見をふまえて、自分の意見を書く。		○		多面的・多角的な視点から考えを検討し主張を明確にしている。		○	○	5
	第2学期中間考査						○	○		1
	「『である』ことと『する』こと」 (丸山真男)	・対比的な概念や具体例の意図をとらえ、筆者の主張をつかむ。 ・「自由」という視点から日本の近代について考えを深める。			○	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 学習課題に沿って、対比的な概念や具体例の意図を押さえつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	○			16
	第2学期期末考査			○	○		○	○		
テーマの具体化・焦点化	・テーマを具体化・焦点化し、掘り下げる。		○			反論の想定をしながら自分の考えを見直し、的確に伝わる文章になるように工夫している。		○		5
3 学 期	問いを立ててレポートを書く	・適切な問いを立て、必要な情報を収集する。 ・調べたことを整理し、レポートの形式に沿って書く。			○	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増している。 文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解を深めている。 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら論点を明確にしている。 伝えたいことが的確に伝わるように、表現や段落の構造などを工夫している。 進んで情報を収集・整理し題材を設定するとともに、表現や段落の構造を工夫しながら表現しようとしている。	○			16
								○		
									○	
	学年末考査			○	○			○	○	
										合計
										105